

社団法人 地盤工学会
技術普及委員会
平成20年度第5回議事録

日 時	平成20年 12月 12日(金) 15:00~18:00					会 場	榊大林組会議室	
委員長	古屋 弘	○	副委員長	小林 恒三	○	幹 事	原 忠	○
幹 事	竹山 智英	×	委 員	前川 太	○	委 員	白石 保津	×
委 員	石井 建樹	○	委 員	山田 悦子	○	委 員	伊藤 和也	○
委 員	舟橋 景介	×	委 員	北田 貴光	○	委 員	谷本 俊輔	○
委 員	王 林	○	委 員	今井 優輝	○	委 員	水野 健太	○
事務局	古藤田 純	○						
○：出席 ×：欠席 △：未定								

報告・確認事項

1. 議事録担当者

北田委員担当

(別添資料1)

2. 前回議事録の確認 (10/8)

前回議事録(山田委員担当分)が確認された。

(資料20-5-1)

3. 平成20第5回事業部会報告(議事録) (10/8)

古屋委員長より概要について報告された。概要は下記の通り。

- ・事業部出版物の標準販売価格の算定などに関する内規の修正(初版印刷部数の上限を原則500部とする)された。
- ・長期滞留出版物12,000部の廃棄が決定した。但し、関東支部より1冊当たり100円程度で売ってほしいとの意見があり、検討中とのこと。
- ・刊行事業に関して、10月末時点で600万円の赤字であり、このままでいくと900万程度の赤字が想定される。(但し、事業部講習会による収支は計画を上回っており、また出版も赤字にはなっていない。)
- ・新刊本の初版印刷部数1,000部が承認された。これについては、約2年以上前に企画されたものであることから、上記内規修正(上限500部)を上回る部数であるが承認されたものである。

(資料20-5-2)

4. 平成20年度第6回 (10/31) 第7回理事会報告 (11/28)

主に、公益法人化への方針を早く打ち出すために10/31、11/28の2回にわたり理事会が行われた。

●第6回理事会報告

講習会オンデマンド化について、小林委員作成の報告書に基づき説明が行われ、理事会内で速やかに可決された。次回委員会以降に対象の講習会を決定していく予定。

●第7回理事会報告

(公益法人化について)

- ・11月末に地盤工学会の公益法人化に向けた定款の基礎が作成された(現在、定款の原案が各支部に回っている)。
 - ・公益法人化に関して、「事業の収益」に関して突っ込んだ検討がなされている。講習会や出版については、いくらかの収益はあるものの、広く一般向けのものであれば公益事業とみなされるが、学会内の他事業への収益充当がなされると公益事業とならない
 - ・来年度、地盤工学会の公益法人化が現在の事業部所管の事業は公益事業とはならない。講習会などの対象も広く一般市民向けに拡げないと学会全体の公益法人化は難しい。
- (創立60周年記念事業について)
- ・DVD出版による売り上げを記念事業費用に充てる方向で検討中である(総予算は約800万円であり、DVD1枚当たり20万円程度で販売する予定)。
 - ・記念ポスターによる広報活動について、JR都内(山手線)各駅へのポスター掲載案は否決された(掲載予算は約350万円であった)。また、各支部への援助金を平均40万円とすることが決定した。

(資料20-5-3)

5. 講習会開催報告および収支報告

(資料20-5-4)

10月および11月開催の7講習について事務局（古藤田氏）より報告された。

- ・10月開催の液状化講習（原委員担当）は、予定40名に対し130名もの多数の参加があった。
- ・11月開催の講習会については、講師への謝礼および交通費が大であったこと、申し込み数自体が少なかったことなどを理由に収入実績が落ち込んだ。
- ・IT講習会として行われた岩盤編講習会への参加者85名のうち、北海道での参加数（32名）が最も多かった。
- ・上記IT講習会では、関西支部においてデータが1度途切れた、東北支部では講習会直前にPCを替えるなどのトラブルが発生したとのこと。

10月, 11月

講習会名	会場	会員	非会員	学生	後援	予定	参加者	率
	開催日	収入予算(円)		収入実績(円)		実績の収支差(円) (見込み)		
やさしい土質力学講習会	JGS会館大会議室	25	7	1	0	40	33	83%
	10月3日	631,000		306,000		66,052		
地盤調査の方法と解説講習会	JGS会館大会議室	26	10	2	0	40	38	95%
	10月9,10日	782,000		788,000		459,654		
斜面の安定・変形解析入門講習会	JGS会館大会議室	33	11	1	1	40	46	115%
	10月20日	391,000		487,000		238,381		
液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計講習会	日本大学理工学部	106	19	4	1	40	130	325%
	10月27日	511,000		1,189,000		538,347		
設計用地盤定数の決め方-岩盤編講習会(IT)	JGS会館大会議室	79	6	1	0	0	86	-
	11月18日	0		524,000		72,113		
さまざまな地盤災害と地形・地質講習会	JGS会館大会議室	18	4	3	2	40	26	65%
	11月21日	460,000		262,000		-12,914		
リスク工学と地盤工学講習会	JGS会館大会議室	19	1	2	0	40	22	55%
	11月25日	431,000		207,000		-46,985		

H20年度これまでの合計見込み

14,936,000

7,118,542

6. 事業部一般会計収支報告

(資料20-5-5)

事務局（古藤田氏）より報告された。

11月末時点での収入実績は予算額を上回っているものの、年度内に調整が困難な講習会等もあり、今年度の予算（約2,000万円）達成は困難と想定される。

審議事項

1. 平成20年度技術講習会

(ア) 進捗状況

(資料20-5-6)

- ・「山岳トンネル工法・・・講習会」（谷本委員担当）：調整つかず、次年度へ。
- ・「地盤防災のための基礎知識・・・講習会」（王委員担当）：調整つかず、次年度へ。
- ・その他講習会については、資料20-5-6の通り。

(イ) 開催決定

「基礎構造物の設計に関する新技術・新工法」講習会(12/24)

(別添資料2)

「近接工事の調査・設計・施工技術」講習会(2/13)

(別添資料3)

「建設産業副産物の地盤工学的有効利用」講習会(3/6)

(別添資料4)

「土の弾塑性構成モデル」講習会(3/27)

(別添資料5)

- ・上記6報告を踏まえ、今後の講習会ではより参加に対するアピールが必要。このためにも、次年度は少し早めの講習会開催を行うことも検討したい。
- ・3月開催予定の「土の弾塑性構成モデル」では、講習会開催前にあらかじめ質問を受け付ける形式をとる試みがなされており、このような工夫が今後より必要と思われる。
- ・講習会の「クラス」や「テーマ名」でこれまでの実績を分析すると良い(ex.「わかりやすい」などの言葉がつく講習会の参加人数は多い⇒前川委員指摘)。次回委員会で分析結果を報告(事務局)。

(ウ) アンケート集計結果(10月, IT講習会-岩盤編)
特になし。

(別添資料6)

2. 平成21年度技術講習会

(ア) 開催時期と担当委員の決定

(資料20-5-7)

(イ) コース制の割振り

(資料20-5-8)

(ウ) 分類(大・中・小)

(別添資料9)

平成21年度講習会の開催時期と担当委員(ア)が決定。

年間開催件数の絞り込みについて技術普及委員会のマンパワーからみて現行計画38件は過大であり、審議の結果6件を取り下げることとした。

今回決定した(ア)、前回委員会で分類した(イ)・(ウ)を事務局よりまとめてメール配布するので、各委員は要チェックのこと。

3. 講習会オンデマンド化に関する検討

(資料なし)

講習会オンデマンド化に向けWGメンバーが下記の通り決定。

- ・旧メンバー：小林委員(リーダー)、前川委員、山田委員、王委員(計4名)
- ⇒・新メンバー：前川委員(リーダー)、山田委員、王委員、原委員、石井委員(計5名)

4. JST: WEBラーニング教材作成に関する検討

(資料20-5-9)

WEBラーニング教材作成(Q&Aや用語集作成など)に関する技術普及委員からの検討人員選出が行われ、決定した。

⇒小林委員なお、さらに1名程度の委員の追加について小林委員が持ち帰り検討することとなった。・水野委員 決定

5. H21講習会コース制に関する検討

(資料20-5-10)

今井委員よりコース制変更案について説明が行われ、技術普及委員会として「案①」を変更案とすることが決定された(具体案については資料20-5-10の通り)。

- ・ 次回委員会開催日 平成21年2月3日(火) 15:00~17:00